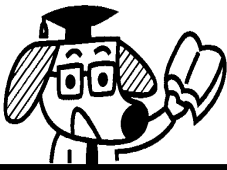


資料番号700



かせい すいせい きんせい なまえ 火星、水星、金星などの名前がどうしてついたの

むかし せい こ し 昔、わく星は5個しか知られていなかった

たいようのまわりをまわるわく星は、ちきゅうをいれて9個です。この9個のうち、ぼうえんきょうが発明されるまでは、5個のわく星しか見つけることはできませんでした。その5個とは、せい きんせい かせい もくせい どせい
星、金星、火星、木星、土星です。

かせい きんせい なまえ ちゅうごく 火星や金星などの名前がついたのは、中国がはじまり

ちゅうごくではむかしよもくかどきんすいなた
中国では昔からこの世のすべては、「木、火、土、金、水」の5つから成り立っていると考えられていました。このことを「ごぎょうせつ」といいます。この「ごぎょうせつ」で、この世界のすべてを5つに分類することが行われていました。

ちゅうごくむかししせいこせいなまえごぎょうせつ
中国でも、昔、知られていたわく星は5個でしたので、わく星の名前に「ごぎょうせつ」の5つを当てはめたのです。

すいせい たいよう もと ちか うご みず ほし きんせい あか しろ
水星は太陽に最も近く、めまぐるしく動きまわっているため水の星、金星は明るく白く光るので金の星、火星は赤くかがやいているので火の星、土星はくすんだ黄色から土の星そして、最後の星に木星の名をつけたのです。

ちゅうごく ほし なまえ にほん つか
こうして、中国でつけられた星の名前が、日本でも使われるようになったのです。

(監修 国司 真)

